

様式(9)

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 8 号	氏 名	岡 久 玲 子
審査委員	主 査 雄西智恵美 副 査 安井 敏之 副 査 森 健治		

題 目 Development of a Strengths Measurement Scale for the lifestyle transformation process

(生活習慣変容過程におけるストレングス測定尺度の開発)

著 者 Reiko Okahisa, Toshiko Tada

2014年2月発行 JMI(The Journal of Medical Investigation) , Vol.61,
No.1, 2 に掲載予定

要 旨 生活習慣病の予防は重要な課題であり、そのための効果的な保健指導についても模索しているのが現状である。そこで、本研究は、生活習慣変容過程におけるストレングス測定尺度（以下 SMS）を開発し、その信頼性と妥当性を検証することを目的とした。

SMS（原案）を、成人25人を対象とした質的帰納的研究により作成し、その後、平成25年8月から10月に、予備調査を経て抽出された38項目からなるSMS（本調査版）を用いた無記名自記式質問紙調査を日本の成人1,339人を対象に実施した。本研究に当たり、徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号1316）。

回収数は1,229部（回収率91.8%）、分析対象1,160部（有効回答率86.6%）であった。SMS（本調査版）について探索的因子分析を行った結果、【活用】、【再構築】、【つながり】、【自己理解】の4因子36項目を採択し、SMS（最終版）を作成した。SMS（最終版）と、先行研究 Inner Strength Scale, Inner Strength Questionnaire との因子構造の比較では、どの尺度もSMSの【つながり】、【自己理解】と同様の意味をもつ因子を含んでいた。しかし、SMSの【活用】、【再構築】は、認識面だけでなく行動面の力をも含んでおり特徴的な因子であると考えられる。 α 係数はSMS全体で0.941、各4因子では0.876~0.926の範囲で信頼性が確保された。SMSと修正版主観的健康管理能力スケール日本語版(PHCS)との相関係数は0.495、精神的回復力尺度(ARS)とで0.520、健康関連QOL尺度(SF-8)の精神的健康とで0.222と、有意な正の相関が認められ、収束の妥当性が確認できたと考える。また、SMSと生活習慣との相関係数は0.350、行動変容ステージとで0.366と、基準関連妥当性(併存的妥当性)も確保できた。年齢との相関関係は認められず、SMSの汎用性が示唆された。

以上のことから、生活習慣変容過程におけるSMSを開発し、その信頼性と妥当性を確認することができた。今後増大することが予測されている生活習慣病予防のための保健指導に、アプローチの視点として、また評価指標として本尺度を使用することの可能性が示唆され、その社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。